

指定管理者制度導入施設の管理運営状況等に関する評価表
(評価対象年度:令和7年度)

<施設概要>

施設	武者小路実篤記念館
施設の設置目的	武者小路実篤の業績を顕彰し、広く市民の教養及び文化の向上に寄与する
指定期間	平成31年(2019年)4月1日～令和11年(2029年)3月31日
指定管理者	一般財団法人調布市武者小路実篤記念館
所管部署	教育部 郷土博物館

<施設所管部署における全体総括>

令和7年度は、調布市制施行70周年・実篤記念館開館40周年・武者小路実篤生誕140年の記念事業を開催・実施した。展示事業では、春・秋2回の特別展と収蔵品による5回の企画展を実施した。また、実篤が調布市に移り住んだ年が市制施行と同じ昭和30年であることから、夏休み企画において、市制施行70周年を記念するコーナーを設けた。普及事業では、開館40周年の記念事業として、調布市ゆかりの話題の作家・原田マハ氏を講師に招いた講演会を開催し、実篤を周知する機会となった。学校教育・地域との連携においては、新たな学童クラブ、児童館などと連携するなどして参加者数が増加した。令和8年度の実篤没後50年事業を見据えたイベントを近隣学童クラブの協力を得て実施した。事業参加者数は、移動展(隔年開催)の開催がなかったため減となったが、特別展や企画展の好評などにより記念館利用者数は増となった。

施設の維持管理については、開館から40年が経過し、施設・設備の経年劣化が進む中、市が実施する記念館設備等改修工事設計に協力しているほか、施設が安全で良好な状態を保つことができるよう日常管理に努めており、適切な管理運営が行われていると評価できる。

様々な創意工夫や利用者の利便性の向上に取り組み、学校連携や文化・芸術の場として魅力ある事業の提供に努めたと評価できる。今後も安定した財団運営や事業の実施とともに新たな利用者を獲得し、リピーターを増やすことのできる魅力的な事業展開を期待する。

総合評価	A
------	---

総合評価基準

以下、施設の管理運営等に関する各視点に基づく評価に対応した係数の合計で総合評価を決定する。

<係数>
s→10
a→8
b→6
c→4
d→2

各視点に基づく評価の
係数合計を算出

<総合評価基準>

S(特に優れている)
→42 ～ 44 (かつ各視点で c 評価が無い)
A(優れている)
→36 ～ 41(かつ各視点で d 評価が無い)
B(良好)
→26 ～ 35
C(要改善)
→16 ～ 25
D(要抜本的見直し)
→10 ～ 15

<施設の過去3箇年の主な管理実績>

項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度
記念館利用者数	6776人	8434人	9366人
事業参加者数	1万6958人	1万4396人	1万3565人
指定管理料(市決算額)	3743万436円	3245万4909円	3521万9215円
利用料金収入	106万8200円	118万6650円	109万4030円

<施設の管理運営等に関する評価(各評価区分の考え方は下段の「評価の目安」を参照)>

業務の実施体制	確認項目	確認欄
	業務マニュアルの整備(職員への周知含む)	☐ 有(更新) ☒ 有 ☐ 無
	緊急時におけるマニュアル・連絡体制の整備(職員への周知含む)	☐ 有(更新) ☒ 有 ☐ 無
	職員の育成(研修・緊急時対応等の訓練)の実施	☒ 実施 ☐ 未実施
	<評価におけるその他の視点> ・個人情報の保護及び情報漏洩防止のための措置 ・職員の勤務条件・待遇における関係法令の遵守 ・協定書等を遵守した業務の再委託 など ・適切な人員配置 ・適時適切な市との情報共有	
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)	評価(b~d)
	月1回の対面会議に加え、適宜連絡を取り、市との情報共有を行っている。人材育成では、事業担当、総務担当とも各専門分野への研修に参加し、業務の質の向上を図るとともに、喫緊の課題であるベテラン職員から若手職員への知識や技術の継承を引き続き進めた。 令和4年度に導入した人事評価制度を活用し、組織の活性化につなげたほか、労務管理については、社会保険労務士の助言を得て規則等の整備を実施し、財政援助団体監査結果に基づく指摘事項についても是正を行った。	b

評価の目安(b~d)

b: マニュアル整備や研修等が適切に実施されており、その他、協定内容や関係法令等が遵守されている。

c: マニュアル整備や研修等の実施、協定内容や関係法令等の遵守について一部改善を要する点がある。

d: 業務の実施体制について、抜本的に改善が必要なものがある。

施設の維持管理	確認項目	確認欄
	施設・設備についての保守点検の実施	☒ 実施 ☐ 未実施
	施設・設備に不具合等があった場合の修繕等の実施	☒ 不具合等有(9件(うち対応9件)) ☐ 無
	作品・資料の展示・保存環境の維持	☒ 実施 ☐ 未実施
	備品の適切な管理(台帳との照合)	☒ 実施 ☐ 未実施
	<評価におけるその他の視点> ・利用者の安全確保対策 ・適切な衛生管理(清掃対応、感染症対策など) ・指定管理者として必要な保険への加入 など	
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)	評価(a~d)
	経年劣化による施設・設備の不具合が増加傾向にあるが、適宜、必要な修繕を実施し、2階収蔵庫の空調配管更新修繕、断線した電話線補修及び仮設の引き込み等を実施するなど、利用者の安全性、快適性の維持を行っている。市が実施する記念館設備等改修工事設計に際し、市及び受託事業者と協力し、検討を重ねている。また、自主事業費により施設管理アドバイザーを委託し、施設の不具合状況の確認、対処方法や修繕の助言を得て、財団が実施する施設管理について問題解決に努めた。 そのほか隔年で実施している収蔵庫内の燻蒸作業を行い、作品・資料の良好な状態を確保し、保全に努めている。また、資料管理として作品の貸出等への対応や貴重な作品保全のための動産保険への加入手続きを行っている。	b

評価の目安(a~d)

a:施設・設備の点検や修繕等への適切な対応に加え、先進的な対策の導入など、優れた安全対策や維持保全などが行われている。

b:施設・設備の点検や修繕や備品管理、安全対策などをはじめ、施設の維持・管理が適切に実施されている。

c:施設・設備の点検や修繕等の施設の維持・管理について一部改善を要する点がある。

d:施設の維持・管理について、抜本的に改善が必要なものがある。

サービスの提供	確認項目	確認欄
	計画した事業(サービス)の実施	☑計画どおり ☐一部未実施 ☐多くが未実施
	利用者数の状況(前年度比較)	☐前年比5%超増 ☑同水準(±5%) ☐前年比5%超減
	新たなサービス(事業)の実施	☑有(3件) ☐無 主な実施内容:来館・来園記念スタンプラリー新デザイン設置、調布国際音楽祭2025サテライトコンサート、Instagramの開設
	サービスの見直し(利用方法・事業回数・時間帯等)の実施	☑有(2件) ☐無 主な実施内容:講座申込にWEBフォーム導入、自由参加型「実篤に挑戦」の復活
	所蔵品の監理、整理・保存と活用	☑実施 ☐未実施
	職員の接遇態度(言葉遣い、態度、服装、問合せへの対応等)	☑優れている ☐普通 ☐要改善
	<評価におけるその他の視点> ・利用者にとって分かりやすい施設利用案内や事業等に関する情報提供 ・施設の設置目的に沿ったサービスの提供及び事業の実施 ・協定書等に基づく施設の開館日、開館時間の遵守 ・利用申請等に対する迅速な対応 ・利用者に対する附帯設備・備品等の適切な提供 ・苦情や要望等に対する適切・迅速な対応及び市への報告 ・施設の利便性向上・利用促進に関する取組 ・利用者満足度アンケート調査等の結果 など	
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)	評価(s~d)
	普及事業では、開館40周年の記念事業として、調布市ゆかりの話題の作家・原田マハ氏を講師に招き、「実篤のひまわり -日本人のゴッホ愛は(白樺)から始まった- 」と題して講演会を開催したほか、来館・来園記念スタンプラリーを一新し、調布市ゆかりのイラストレーター・黒木ユタカ氏による新たなデザインで製作し、設置した。また、調布市・調布市文化コミュニティ振興財団共催の調布国際音楽祭2025のサテライトコンサートに実篤記念館として初めて会場を提供し、文学や美術にとどまらない、幅広い利用者層の獲得に努めた。 資料の状態維持・改善のために作品の修復等を行ったほか、オリジナルの資料の保存と展示公開の両立を図るため、資料の複製を製作するなど資料の整理保存に努めた。また、調査・研究事業では、令和5年度から国文学研究資料館が実施する近代文学者草稿のデジタル化プロジェクトに参画し、令和8年4月現在、収蔵する実篤自筆原稿の全600点余(原稿総枚数 8384枚)について、同館の「国書データベース」で公開されており、より多くの方々に実篤作品を周知できている。 展覧会や事業に合わせた図書の紹介など、資料利用のサービス充実に努め、特別閲覧では高度な質問や調査への対応も行うなど、利用者のニーズに合わせた丁寧な対応を評価する。利用者アンケート結果により、特に「良い」の評価が多かった「記念館の印象」(84.3%)、「受付・レファレンスの接客」(73.7%)、「休憩コーナー」(71.0%)、「展覧会」(70.6%)について高い水準の満足度を得ていると評価できる。	a

評価の目安(s~d)

s:サービスの提供(施設利用、事業実施など)について、特に優れた実績がある。

a:サービスの提供(施設利用、事業実施など)が適切に実施され、かつ、前年度実績を上回る実績が複数あるなど、優れた実績がある。

b:サービスの提供について協定書等の内容に基づき、概ね適切に実施できている。

c:サービスの提供について協定書等の内容に基づく対応が実施されていないものが散見され、一部改善を要する点がある。

d:サービスの提供について、抜本的に改善が必要なものがある。

財務 の 状 況	確認項目		確認欄
	収支計画を踏まえた実績	利用料金収入	☒ 計画比+5%超増 ☐ 同水準(±5%) ☐ 計画比-5%超減
		支出総額	☐ 計画比+5%超 ☒ 同水準(±5%) ☐ 計画比-5%超
	収入(指定管理料を除く)の状況(前年度比較)		☐ 前年比5%超増 ☐ 同水準(±5%) ☒ 前年比5%超減)
	収入確保や経費縮減の取組		☒ 有 ☐ 無 主な取組内容:新たなミュージアムグッズの制作・販売
	<評価におけるその他の視点> ・指定管理料の適切な管理(帳簿等の整備) ・利用料金等に関する適切な収納及び還付事務の実施 など		
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)		評価(s~d)
	利用料金収入については、記念館利用者数の増により計画比9.4%増となった。前年度比で減となっている理由は、記念館利用者数のうち、「東京・ミュージアムぐるっとパス2026」を利用した入館者分が利用料に積算されないこと(前年比109人増)、特別展の図録の制作経費を抑えた結果、販売価格が下がったため頒布料が減となったことなどによる。 自主事業として、ミュージアムグッズの販売を通して、実篤作品の魅力や実篤記念館の活動の認知度を高めるとともに、自主財源の確保に努めた。令和7年度は、実篤アクリルスタンドや旧実篤邸ポストカードなどを新たなグッズを制作・販売したほか、仕入れ価格や経費増にともない商品価格の改定を実施して収益確保に努めた。引き続き、ミュージアムグッズのオンライン販売や窓口でのキャッシュレス決済導入など、利用者の利便向上と窓口会計業務の効率化を図っている。令和7年度は欠員による人件費の減や空調設備の不調による電気料金の減があったほか、日頃からコスト意識を持って、費用比較や仕様の精査にあたり、経常経費の縮減に努め、全体として計画比で5.2%の減となった。 令和7年度は、総資本に対する本業の利益率を示す「総資産当期経常増減率」が13.5%であり、効率的に利益を上げていると評価できる。		a

評価の目安(s~d)

s:収支計画等に基づく適切な運営等の実施に加え、収入増加や経費縮減に関して、特に優れた対応・実績が見られる。

a:収支計画等に基づく適切な運営等の実施に加え、収入増加や経費縮減に関して、優れた対応・実績が見られる。

b:収支計画等に基づく適切な運営が概ね実施できている。

c:収支計画等に基づく適切な運営や、その他財務に関連する取組に一部改善を要するものがある。

d:収支計画等に基づく適切な運営や、その他財務に関連する取組に関して抜本的に改善が必要なものがある。

その他	確認項目	確認欄
	地域等との連携による取組の実施	☑実施 ☐未実施 主な実施内容:近隣学童クラブ向けプログラム、実篤没後50年事業プレイベント、桐朋学園大学「観梅のつどい」コンサート、深大寺・郷土博物館との事業連携とコラボ展示
	地域貢献活動の実施	☑実施 ☐未実施 主な実施内容:むさしの・ガーデン紀行森の地図スタンプラリー、京王電鉄駅スタンプアプリ「エキタグ」、東京都文化財ウィーク、市ふるさと納税、若葉小地区協議会
	<その他評価の視点> ・省エネルギー、省資源等の取組による環境への配慮 ・市民雇用の取組 ・地域経済の発展に資する取組 など	
	施設所管部署の総括（上段の確認項目や評価の視点を含めた総括）	評価(s～d)
	学校・地域との連携においては、新たに東部児童館学童クラブ、多摩川小学校学童クラブ、東部児童館、青少年ステーション(CAPS)と連携したほか、令和8年度の実篤没後50年事業を見据えたプレイベント「ラッキィ池田さんと踊って遊んで、学んじゃおう！」を近隣学童クラブの協力を得て実施した。学校連携事業では、中学生職場体験、第八中学校園芸部の活動、若手教員育成研修等を受け入れるなど、地域の子どもたちにアプローチを行い、継続的な連携事業に繋げている。学校・地域との連携を継続することにより、実篤記念館の認知度を高め、新しい利用者の獲得に向けた取組を進めていると評価できる。 近隣地区と連携した回遊型事業は、市制施行70周年を記念したキャンペーンにより、京王電鉄が実施した駅スタンプアプリ「エキタグ」スタンプラリーの施設スタンプの一つとして実篤記念館が選ばれ、入場者の増加につながった。また、デジタルと併用した武蔵野コッツウォルズの「むさしの・ガーデン紀行森の地図スタンプラリー」や東京都文化財ウィークのデジタルスタンプラリースポットに参加し、地域の様々な施設や店舗をつなぐ地域連携ができたことにより、実篤記念館の認知度を高め、新たな利用者を獲得できたことを評価する。 また、若葉学校地区協議会の一員として防災訓練に参加するなど、地域貢献を図った。	a

評価の目安(s～d)

s:4つの視点に関する取組以外に、地域等との連携による事業や地域貢献活動への積極的な参加などにおいて、特に優れた対応が見られる。

a:4つの視点に関する取組以外に、地域等との連携による事業や地域貢献活動への積極的な参加などにおいて、優れた対応が見られる。

b:地域等との連携による事業や地域貢献活動への参加などの取組が行われている。

c:地域等との連携による事業や地域貢献活動への参加などの取組に関して一部改善を要するものがある。

d:地域等との連携による事業や地域貢献活動への取組について、抜本的に改善が必要なものがある。

<指定管理者における全体総括>

令和7年度は、調布市制施行70周年・実篤記念館開館40周年・武者小路実篤生誕140年の記念の年にふさわしい大型事業が続き、市民が広く誇り得る文化の拠点として、実績と信頼を活かしながら、良質で魅力ある事業を展開しました。展示・普及事業では、春の特別展「実篤の肖像」でさまざまな視点から表現された実篤像を通して、実篤という人物を今一度とらえ直し、秋の特別展「細川護立と武者小路実篤」では、細川家の資料を多数所蔵する永青文庫のご協力で生垣こわたる2人の信頼の軌跡をたどりました。このほか収蔵品による5回の企画展を開催し、年間を通して展覧会ごとに「実篤記念館の40年」を特集するコーナーを設けました。また、調布市にゆかりがある話題の作家・原田マハ氏を講師に招いてご講演いただきました。

学校・地域との連携事業では、近年力を入れている、学校教育や近隣学童クラブとの連携事業の連携先が増え、また学童クラブの協力で「ラッキィ池田さんと踊って遊んで、学んじゃおう！」を開催するなど発展的に事業を展開しました。さらに、調布国際音楽祭2025のサテライトコンサートに実篤記念館として初めて会場を提供し、文学や美術にとどまらない、幅広い利用者層の獲得に努めました。このほか、新たに公式Instagramのアカウントを開設し、広報活動の充実を図りました。

情報提供システム事業では、システム稼働から20年が経過した収蔵品データベースのリニューアル作業の2年目として、システム設計とデータ整備を実施し、デジタルアーカイブ機能の充実を進めました。

施設管理運営事業では、清潔で快適な施設の維持・保全や利用者の安全を確保するため、施設の維持管理に努め、施設・設備の経年劣化に対して必要な修繕を実施しました。また、隔年で実施している収蔵庫内の燻蒸作業を実施したほか、調布市が実施する実篤記念館設備等改修工事設計に際し、市及び受託事業者と協力し検討を重ねました。

自主事業では、物販事業において自主財源の確保と活用に努め、開館40周年を記念した新たなグッズ3種を発売したほか、好評の実篤チョコ限定版は4500個を製作し、調布市のふるさと納税返礼品としても提供しました。また、利用者の利便性向上と窓口会計業務の効率化のため、令和6年度から窓口での支払いにキャッシュレス決済を導入し、運用しています。